

姫路市

3校で給食開始

16.10.2 毎日

06年度、全28校で実施へ

姫路市の東、飾磨東、網干の3市立中学校で1日、給食が始まった。市は来年10月をめどに段階的に実施校を広げ、06年度中には全28校で実施する予定。

中学校給食は石見利勝市長が昨春の市長選で公約に掲げ、昨年6月から有識者や中学校教諭、保

護者らで構成した懇話会で検討。教諭から「多忙な職員の負担増につながる」、保護者から「子どもに愛情を注ぐ弁当づくりの機会が失われる」など反対意見も根強かったが、最終的に民間業者が調理、弁当箱に詰めて配膳する「デリバリー方式」でまとまった。

実施にあたり、市は配膳室の整備や弁当箱の購入、民間業者への委託料など計6300万円を今年度予算に計上。市内東部、中部、西部の中規模校3校で準備を進めていた。実施前のアンケートでは保護者の9割、生徒の6割が「必ず利用する」と答えたが、3校の生徒計1359人中、10月分を申し込んだのは659人と48%にとどまった。



おいしそうに給食を食べる生徒—姫路市立飾磨東中で

この日の献立は、鳥のから揚げ、大根、じゃがいもの煮物、牛乳など8品。飾磨東中では各学級の当番生徒が真新しい配膳室から給食の入った箱を運び、申し込んだ生徒は小学生以来となる給食を懐かしそうに食べていた。1年1組の平本大祐君(12)は「(弁当箱に詰められていて)配膳の間が省けてこの方がいい。弁当を毎日作ってもうるのは親の負担になるし、給食も思ったよりおいしかった」と話していた。

【酒井雅浩】